

## シリアの混乱にケリをつけるプーチン

【訳者注】ロシアのシリアへの軍事介入をきっかけとして、世界情勢が急転しそうだと予測する、このような論文が今、目白押しである。p.5-6 に引用してあるプーチンの発言は、筋が通って小気味よく、(プーチンの発言はいつもそうだが) 素直に聞くことができる。「自分が間違っていると知っている」「基本的に不道德な」アメリカは、何も答えられないはずである。「プーチンが領土的野心をむき出した」などと、どうしても言いたい人は、少なくともここに翻訳されたものを読んで、ここに至った経緯をよく調べていただきたい。アメリカ専有の“殺人免許”を認め、そこから裁断するような狂った言論も、これからはなくなるだろう。我々は世界の平和と安定だけでなく、道徳的に進化した世界に対して責任がある。

By Mike Whitney

October 9, 2015, Information Clearing House

ロシアは、トルコと戦争することを望んでいない。それでロシアの将軍たちは、2 国の衝突になるような行動を、トルコに取らせないための、単純な、しかし効果的な、計画を考え出した。

先週、ロシアの軍用機が、トルコ領空に 2 度にわたって侵入した。この 2 度の事件は、アンカラ (トルコ政府) を驚愕させ、トルコの政治指導者たちを激怒させた。2 度とも、モスクワの高官はこの侵入を丁寧な謝罪し、これらは意図しないもので (“ナビゲーション・エラー”)、今後は同じような侵入を避けるように努力すると言った。

それから 3 度目の同じ事件があった。これはより深刻な事件で、過ちではなかった。これは明らかに、トルコ大統領 **Recep Tayyip Erdogan** へのメッセージとして、意図されたものだった。この事件を要約する **World Socialist Web Site** からの短い記事を引用しよう――

「トルコの高官は、月曜日に 3 度目の事件があったと主張した。これは正体不明の MiG-29 ジェット戦闘機が、国境の自国側を、おそらく発砲の用意をしてパトロールしていた、8機のトルコの F-16 ジェット戦闘機に対し、4分半にわたって、そのレーダーをロックしたものだ。」(「米、NATO がシリアをめぐる、ロシアへの脅威を強める」World Socialist Web Site)

<https://www.wsws.org/en/articles/2015/10/07/syri-o07.html>

これは決して過ちではなかった。戦闘機のパイロットがこうした協約を採用するのは、唯一、彼が敵機を撃ち落とす計画をしている場合だけである。これはメッセージであり、たとえ政治家やメディアの頭の上を素通りしたとしても、トルコの最高司令部はその意味を知っている、と私は保証する。これは警告信号である。モスクワが知らせようとしているのは、このあたりには新しい保安官がいる、だからトルコは悪いことをするな、さもないと面倒なことになる、ということだ。北シリア上空に、米 - トルコ飛行禁止ゾーンは作らせない、トルコ国境側からシリアの拠点への、どんな空爆も許さない、そして、トルコ軍のシリア領内への、どんな地上侵略も絶対に許さない、という警告である。「ロシア領空防衛軍」はいま、シリア領空をコントロールしており、彼らはシリアの主権的国境を防衛する決意をしている。これがメッセージだ。

これは“先制行動”が、衝突の始まりになるよりも、それを、いかに現実防止することができるかの好例である。トルコの弓の上を越えて射撃することによって、モスクワは、エルドアン大統領の、北シリアを接收し、それを“安全地帯”と宣言する計画を、頓挫させてしまった。トルコは今、そんな計画を放棄して、シリア領地を占領して保有するどんな試みも、速やかで強力なロシアの報復を呼ぶことになる、理解しなければならない。このような見方をすると、ロシアの侵入は、潜在的な敵に向かって、してよいことと、してはいけないことを単に電報で知らせるだけで、より大きな戦争を避けるための、非常に効果的な方法のように思える。簡単に言えば——プーチンが、シリアでのゲームのルールを書き換え、その結果、エルドアンはそれに従った方がよくなった、ということになる。次は、インデペンデント紙に載った Patrick Cockburn の、トルコについての論文の一部である——

「シリアへのトルコの地上侵略は、いまだ可能性に留まっているが、現在、ロシアの航空機が、トルコが最も侵入しそうに思われる領域で活動しているために、前よりも危険を伴うことになる。

「トルコにとって危険は、彼らが今、2つのクルド族の準国家を、1つはシリアに、もう1つは南に隣接するイラクに、持っていることである。更に悪いことに、シリア - クルド国は、クルド労働者党 (PKK) のシリア支部といってもよい民主連合党 (PYD) に支配されていて、彼らは 1984 年以来、トルコ国と戦っている。南東トルコのクルド地域の PKK による将来の反乱は、PKK が事実上、独自の国家を持っているという事実によって、強化されるだろう。

「トルコの 4 年におよぶバシヤール・アル - アサド大統領追放の試みは、失敗した。トルコのエルドアン大統領が、これをどうするかは、NATO の支援がこの段階では望む

ことができないので、全く不明である。トルコのロシアとの関係については、エルドアン氏は、トルコへのいかなる攻撃も、NATO への攻撃であり、“もしロシアが、多くの問題で協力してきたトルコのような友好国を失うならば、ロシアが失うものは大きいだろう”と言った。しかし、少なくともシリアでは、失う者（敗者）はトルコである。

（「シリアにおけるロシア：ロシアのレーダーが、トルコのジェット戦闘機に対しロックをかける」 The Unz Review）

<http://www.unz.com/pcockburn/russia-in-syria-russian-radar-locks-on-to-turkish-fighter-jets/>

エルドアンは気の毒だ。彼はサイコロを振って“スネーク・アイ”（1のぞろ目、万事休す）が出た。彼は、彼のオスマン・トルコを、北シリアにまで延長しようと目論んだが、その夢は潰えた。彼は、彼の軍用機を北シリアに配備し、公然とロシア空軍に挑戦すべきだろうか？ いや、彼はそれほど馬鹿ではない。彼は国境の自分の側に留まって、地団駄を踏み、“悪人プーチン”に殴りかかるだろうが、その日の終わりには、何もなくなるだろう。

そしてワシントンもまた何もしないだろう。確かに、ヒラリーとマケインは、シリア上空に飛行禁止ゾーンを要求しているが、それは実現しないだろう。プーチンがそれを許さず、安保理も認めないだろう。いずれにせよ、どんな口実があるだろうか？ オバマは、プーチンが“過激”テロリストと一緒に、“穏健”テロリストまで殺そうとしているから、飛行禁止ゾーンが必要なのだと言うだろうか？ それはあまり説得力のある話ではなく、実際、アメリカ国民でさえ、それだけは呑み込めないと言うだろう。もしオバマが、プーチンから何かを求めるなら、彼は交渉の席について、ある取引をせざるを得ないだろう。これまでのところ、彼はまだ政権交替が視野に入っているので、それを拒否している。このような兆候はいたるところにあり、トルコの Today's Zaman 紙には、「Incirlik 基地が規模を拡大し、新要員を 2,250 名収容する予定」というタイトルの記事がある――

「Incirlik のテント村は、現代式のプレハブ住宅に建て替えられ、2,250 名の米人要員を新しく収容する、と Dogan ニュース社は報じた。1991 年の湾岸戦争の間に、テント村が設けられ軍事要員が収容されていたが、作戦の終わりと共に閉鎖されていた。

「8月20日、テント村を Patriot Town という名の領域に改修する作業が始まった。これが完成すれば、Incirlik 基地は、ヨーロッパの米軍基地で最大の人員をもつことになるだろう。…

「この基地の収容人員の拡大は、ロシアが、ここ数十年で最大の介入を行った時期に重なる。…モスクワの介入は、シリアの紛争が、代理戦争から形を変えて、世界の軍事主

力が直接、戦闘にかかわる国際紛争になったことを意味する」([Today's Zaman](#))

<http://www.todayszaman.com/diplomacy-i-ncirlik-base-to-increase-capacity-by-2250-to-accommodate-new-personnel-400479.html>

この記事は、中東におけるアメリカの野心の匂いがする。読者にははっきりわかるであろうが、ワシントンは、1991年にやったような戦争をもう一度やろうと構えている。そしてアメリカの空中戦は、取引が終結した7月以来、我々が予言したように、Incirlikの“愛国者タウン”から始まろうとしている。さらなる背景がHurriyet紙の記事からわかる――

「米空軍中央司令部は、偵察と救助のヘリコプター、それに飛行兵を、トルコ南東部のDiyarbakir空軍基地に配備し始めた。これは隣接するイラクとシリアにおける救助作戦に備えるためだ、と司令部は発表した…

「NATOのヨーロッパ同盟国最高司令官で、アメリカのヨーロッパ司令部司令官Philip Breedlove元帥は、このミッションは一時的なものだと言った。

「我々は、Diyarbakir空軍基地に招かれた、トルコ政府の客になるだろう。この場所に永久的に米軍が駐留する計画はない。…これは、トルコ軍と米軍の間に、更にもう一つの共同作戦が成功したことを印づけるものだ」と、ブリードラブは言った。(「[米がトルコ南東に救助用航空機を配備](#)」ハリエツト)

<http://www.hurriyetdailynews.com/video-us-deploys-recovery-aircraft-in-turkeys-southeast.aspx?pageID=238&nID=89517&NewsCatID=359>

“アメリカの偵察と救助用ヘリコプター”？ トルコの南東国境からほんの2マイルの所に？

そうだ――言い換えれば、もしF-16戦闘機がシリア上空で、不法な飛行禁止ゾーンを強制しようとしていて撃ち落とされたら、ほんの20分のところに、偵察と救助ヘリコプターがいるということだ。

なんと都合のよいこと！

これでわかるだろう――たとえプーチンがこの奸計を妨害しても、オバマのチームは、その先を行って、“アサド打倒”計画を進めているということだ。何も変わらなかった、ロシアの介入は未来をさらに不安定にするだけだ。だから、ズビニエフ・ブレジンスキーのような地政学的戦略家は、主導的新聞に署名記事を書いて、この地域の覇権への彼らの計画を、プ

ーチンが壊したと言って非難したのである。覚えておくべきことは、ブレジンスキーは、イスラム過激派の精神的ゴッドファーザーであり、宗教的狂人を利用してヒステリーをつくり出し、世界全体に及ぶアメリカの地政学的目標を、押し進める方法を考え出した人物である。だから、ブレジンスキーが今、必死になって、失敗と屈辱の遺産を避けようとして、忠告を与えようとしているのは、自然な成り行きである。Politico からのこの一節をお読み願いたい——

「アメリカは、もしロシアが、シリアにおけるアメリカの財産 (assets) を攻撃するのをやめなければ、報復すると脅迫すべきだ、と前国家安全保障アドバイザー、ブレジンスキーはフィナンシャル・タイムズに署名記事を書き、中東でのアメリカの信用と、地域そのものが危険にさらされていることを指摘して、“戦略的大胆さ”を強く主張した。…そして、もしロシアが ISIL 以外の標的を追跡し続けたら、アメリカは報復すべきだと付け加えた。

「こうした急速に展開する状況においては、アメリカは、もしこの地域のより大きな賭物を保護しようとするなら、現実的な選択は一つしかない——モスクワに対し、アメリカの財産に直接、損害を与える軍事行動を、中止するように要求すべきだ」と彼は言った」(「ブレジンスキー：オバマは、もしロシアがアメリカの財産を攻撃するのをやめなければ、報復すべし」、Politico)

<http://www.politico.com/story/2015/10/zbigniew-brzezinski-financial-times-op-ed-obama-retaliate-russia-214438#ixzz3ntpV6xmx>

ブレジンスキーが、いとも気軽に、シリアの“アメリカの財産”と呼んでいるのは、テロリストのことである。それほど単純な話である。プーチンは、“穏健”テロリストと“過激”テロリスト、良いテロリストと悪いテロリスト、の区別はしない。冗談でしょう。彼らはすべて同じ穴のムジナで、みんな同じ運命に遭わねばならないのだ。すべて同様に根絶され、逮捕か殺害されねばならない。それだけのことだ。

テロとの戦い物語を、あるテロは支持し、他のテロは咎めるように、捻じ曲げることによって、オバマ政府は、自分自身を、出口のないイデオロギー的袋小路に追い込んでしまった。彼らがやっていることは間違っており、彼らはそれが間違いだと知っている。だからこそ、戦争の口実を考え出すのはむつかしくなるのだ。最近の“必見”インタビューで、プーチンはオバマを、まさにこの点で呼び出している。これがその内容である——

「オバマ大統領はよく ISIS の脅威を口にする。なるほど、では、いったい誰が彼らを武装させたのか？ そして、現在のような状況を起りやすくする政治的風土を、誰がつ

くり出したのか？ 誰がその地域へ武器を配達したのか？ あなたは誰がシリアで戦っているのかを、本当に知らないのか？ 彼らはほとんどが傭兵だ。彼らはカネをもらっている。傭兵はどちらでも報酬のよい方で働く。我々は彼らがいくらもらっているかも知っている。彼らはしばらく戦って、どこか別の所で支払いが多いと知ると、そこへ行くのだ。…

「アメリカは“我々は、シリアの文明化された、民主的な、反政府派を支持しなければならない”と言う。それで彼らは、その者たちを支援し武器を与える。すると彼らはISISに加わるのだ。アメリカは、もう一歩先を考えることができないのだろうか？ 我々はそのような政策を全く支持できない。それは間違いだと思う」（「プーチンが、ISISを出発させたのは誰かを説明する」ユーチューブ、1:38~4:03）

<https://www.youtube.com/watch?v=OQuceU3x2Ww>

おわかりだろうか？ 誰でも、何が起こっているかを知っている。バラク・オバマは、狂ってしまった、基本的に不道德なCIAの計画を防御するために、ロシアとの対決を始める気はない。彼はしかし、現実的に自己防衛することができる敵と取引するときに、アメリカがいつもやっていることを、するだろう。彼がするのは、空威張り、嫌がらせ、脅迫、名誉棄損、悪魔化、嘲笑、いじめ、などだろう。彼はもう一度、ルーブルへの攻撃を始めるか、石油価格をいじるか、さらなる経済制裁を課するかするだろう。ただ、彼はロシアと戦争を構えることはない、そういうことは起らない。

しかし、まだ希望を諦めることはない。結局この失敗劇には、希望の兆しが見えている。そして主たるプレイヤーのすべてが、それが何かを知っている。

それはジュネーブと呼ばれる。ジュネーブが最終戦だ。

ジュネーブは国連の支援する、シリアの戦争を終わらせるためのロード・マップである。その規定には、「暫定的政府の設定」「意味のある国家的対話への…すべてのグループの参加」それに「自由で公平な多数党による選挙」がある。

この条約は、はっきりしていて異論の余地がない。執着する一つの点は、アサドがこの暫定政府に参加を許されるかどうかである。

プーチンは「イエス」と言い、オバマは「ノー」と言う。

プーチンがこのバトルには勝つだろう。究極的に米政府は譲歩し、アサドは退陣せよという

要求を引っ込めるだろう。ジハード - 代理兵を使って政権交代を狙った彼らの計画は、失敗に終わるだろう。そしてプーチンは、中東を、恒久平和と本物の安全保障に、一歩近づけたことになるだろう。

これが希望の兆しであり、シリアの戦争の終わり方であるだろう。

ブラヴォー、プーチン！

(マイク・ホイットニーは、ワシントン州在住、*Hopeless: Barack Obama and the Politics of Illusion* (AK Press) の共同執筆者。この本はKindle版でも購入可能、連絡先は、[fergiewhitney@msn.com](mailto:fergiewhitney@msn.com))